

授業の原則10カ条 「第一条 趣意説明の原則」



指示の意味を説明せよ

P12

【具体例】掃除

- ①「教室をきれいにします。ごみを10個拾いなさい」 P13
- ②「教室を見まわしてごらん。もう少しきれいにしたいね。自分がこうしたいと思うことをやってごらん。時間は五分間です。」 P16

【向山先生の教育観】 伸びやかな自由さ

- ①「知性的な集団とは（学校でも職場でも）のびやかな自由さがあり、自分のやっていることを自分で納得している集団である。」 P12
- ②趣意だけ示して「任務」を相手にまかせるのである。これは、相手を尊重している最高の手段である。 P15

【ポイント】

「ここが大切なのだが、語り方は短い方がいい。10分も20分も指示の意味を語ったら、聞いている方もだらけてきてしまう。」 P13

【向山先生はWHYから、教育運動を始めている】

- ◆法則化運動「教育技術の法則化は現在から21世紀へかけての教育文化の創造である」
『教育技術法則化運動正史』P1
- ◆跳び箱論争「跳び箱を跳ばせられることが教師の常識にならなかったのはなぜか？」
『向山全集14』P46
- ◆向山型算数「私にはどうも不思議だ。なぜ、子供たちは算数が嫌いというのだろうか。」
『月刊誌 向山型算数』創刊号 巻頭言

【教育以外の世界とも繋がる趣意説明の原則】



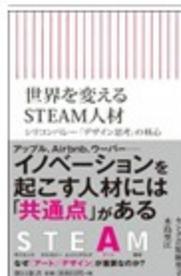
「われわれの場合にも、号令・命令・訓令の使い分けは重要で、その企業が組織的活動をしているかどうかは、幹部とくにトップがこれを適切に行っているかどうかを集約して現れている。急成長の花形企業の不可解な倒産は、号令が主用されていることに、殆どの原因がある。」

『統帥綱領入門』P14



「人々の胸をときめかせ、鼓舞することに成功した個人や組織がとってきた行動のパターンを紹介していこう。それらはすべてWHYから始まっている。」

『WHYから始めよ！』P6



「ビジネスにおいて
「何を作るのか」WHATや
「どう作るのか」HOWではなく、
「何のために作るのか」WHYを考えるということです。」

『世界を変えるSTEAM人材』P82

■「いいとも」という1年生へ
いいともなんていうのは、
きたない言葉ですから、
ちゃんといいですかとか言いなさい。
『教育要諦集6』P129

■運動会 号令
「右、左向け中」と号令をかけて、ダラダラと動いたとする。そこで、すかさず、次のように言う。「**バラバラでした。15点。やり直し。**」

『向山全集31巻』P129

■卒業式の呼びかけ
これから番号を言います。自分のセリフの番号を言われた人は起立しなさい。
(番号を言う) **あなたがたの声は聞き取れません。もっと大きく言いなさい。**
『向山全集37』P137

■運動会の呼びかけ
あまりにも上手なので、もう一度、聞いてみたくまりました。赤、白の順で続けます。
『向山全集37』P47

授業の原則10ヵ条 「第二条 一時一事の原則」

子供たちに指示を与える時の
基本原則である。
同じ時に、二つも三つもの指示
を与えてはいけない。 P18



【具体例】 田園調布地区の朝礼 ノートの漢字練習

- ①「田園調布地区で、全校児童に目標を与えた時の児童の反応を調査したことがある。朝礼が終了して教室に帰った時、今週の目標は何かと聞いた。目標が1つのときは、八割を超える子供が覚えていた。しかし、目標が2つになった時、2つの目標を言えた子は3割以下だった。」 P18
- ②「ノートに漢字の練習をしてね。終わったら先生の机に出して、本を読んでいるのよ。その前に自分のロッカーを整頓してね。・・・」 P19

【向山先生の教育観】 教師こそ責められるべき

- ①「これは教師が悪い。子供を叱るべきではない。思いつくままに、ダラダラと指示を与えた教師こそ責められるべきである。 P19

【ポイント】

「一時に一事の原則は、力を分散させずに、一点に集中させることで事を成し遂げるといふ闘いの原則にも共通する。」 P20

【向山先生も一時一事の原則で、教育運動を広げた】

- ◆「法則化中央事務局心得」1987年7月9日より
現状では、「法則化シリーズ」の発行が、すべての活動に比して優先される。それを支える「本合宿」「サークル」「教室ツーウェイ」の三本柱は、常に注目・検討されなければならない（何が大切であるのかのポイントを欠くと運動は混迷する）。

【教育以外の世界とも繋がる一時一事の原則】



- ◆リンカーンの言葉
「事をなしとげる秘訣は、一時に、ただ一事を成すにあり。」
『授業の腕を上げる法則』 P20



- ◆ブリエンヌの言葉
「ナポレオンの天才の秘訣は、一定時に、一定事件に向かって、注意力を集中する点にあった。」
『授業の腕を上げる法則』 P20



- ◆曹洞宗 道元の言葉
「努々（ゆめゆめ）、学人は一事を専らにすべし」
※仏道を学ぶ人は、必ず必ず1つのことを専らにせよ。



- ◆将棋 深浦康市師匠
「迷わずに目の前の一局一局にベストを尽くすことが大切です」
- ◆将棋 石田和雄師匠
「弟子たちが今やるべきことは、目の前の対局に集中することだから」

■ハードル
私は全員をハードルの前に集めた。教えたことは1つ。「ふり上げる足は、ハードルに直角にまっすぐのばしなさい」ということだけだった。
『向山全集9』 P37

■演劇
オーディションをしたのである。唯一絶対のものは舞台上で声を出して、体育館の後ろまで届くということである。
『向山全集37』 P109

■行進
私の指導はたった1つ。
「曲に合わせて行進する」ことだけである。
『向山全集30』 P15

■スイッチョ
ざわついている雰囲気、きちんとさせなければならなかった。それも授業の中である（お説教で静かにさせるのは下の下の策である）。まず、第一連はどれか指でさせた。二本の人差し指である。
『向山全集36』 P52



授業の原則10ヵ条 「第三条 簡明の原則」



指示・発問は
短く限定して述べよ。

P21

【具体例】 同僚 西川先生の研究授業

「説明が長すぎます。短くしたつもりでしようが、まだまだ長いです。私の10倍以上あります。30秒超える説明はだめです。私は多分10秒以内です。」 P18

「十数秒で済ませるには、輪郭がクッキリした指示を与えなくてはならない。もっとがんばって跳び箱の練習をしてみましょう。などという指示では、全くだめなのである。何をどうするかがはっきりしないからである。一人三回跳んだら、先生の所に集まります。」 P23

【向山先生の教育観】 授業における自然な流れ

「授業中1回も笛を吹かないし、タンバリンも鳴らさなかった。西川氏も子供もしゃがむのである。自然な流れだった。無理がどこにもないなめらかな動きであった。」 P19

【ポイント】

「指示、説明を短くせよ」 P22 「輪郭がクッキリした指示」 P23

【向山先生も簡明の原則で、教育運動を広げた】

- ◆『向山洋一 教育現場の問題へのコメント集 向山の教育実践運動論』2009年11月30日より向山のリーダー論
「鳥の目で戦略を。虫の目で戦術を。」←輪郭がクッキリとした指示

【教育以外の世界とも繋がる簡明の原則】



「敗戦報告に名文を使うは愚である。」

『統帥綱領入門』 P226



「記述はあくまで正確であり、意見はできる限り明確かつ具体的であらねばならぬ。」 P96

「誰でもスラリと読めるように書いてもらいたいものだ。そういう意味で、かたい漢語やむずかしい漢字は必要最小限しか使わないようにしてほしい。」 P137
『理科系の作文技術』



発達障害の子供への具体的な指導法 林隆ドクター

「やってほしいことを淡々と指示するようにしましょう。」

『教室でする発達障害への教育コーチング』 P74

■筆算指導

923+42を932+42（※100の位と10の位を合わせている）と書く子が二人いた。「お尻で合わせるんですよ」と説明した。

『エトセトラ』85号

■向山型算数

どちらかと言えば、言葉を削り、教えることをしないようにするのが向山型算数である。

「向山型算数に挑戦59」

■子供がイメージできる指示

例えば、佐賀の脇山先生。「パンとばたあ1つを仲間にします。」この指示は吟味が足りない。兵庫の橋原先生は次のように言う。「パンにバターをつけていきます。」どちらが、子どもにイメージさせることができるか明らかだ。

脇山先生と橋原先生の差は、「ほんの少しの差」に見える。しかし、脇山先生が橋原先生に追いつくのは、真剣な3年間が必要だ。

「向山型算数に挑戦70」

授業の原則10カ条 「第四条 全員の原則」

指示は
全員にせよ。

P25



【具体例】新採のトラブル 読書の時間での指示

- ① 「(新卒教師が) 希望に胸ふくらませて初めて教壇に立つ。(略) 生活が始まると小さなことで子供たちが聞きに来る。「先生、窓を開けていいですか」—ああいいよ—「先生、外で遊んでもいいですか」—ああ、行ってきなさい—。(略) そのころは新卒教師に対する子供たちの質問は数十にのぼっているから、先生の回答にくいちがいが生まれる。P28
- ② 「例えば、読書の時間、急に大切な指示をすることになった。「みんなこちらを向いて。大切なことを言いますからよく聞くのですよ」と言って指示をする。 P29

【向山先生の教育観】授業における自然な流れ

「指示をした後、行動させると何人かの子が聞いていないということが起こる。ほとんどの場合、教師はそれを子供の責任にする。だが、これは教師が悪い。」P29

【ポイント】

- 「組織とは責任の所在を示す」P25
- 「全体に関する情報は、全体に知らされなければならない」P26
- 「手に何か持っている状態で指示したのは、指示したうちに入らない」P29
- 「おへそをこちらにむけなさい」P30
- 「指示の追加をしてはならない」P30
- 「最後の行動を示してから動かせ」P31

【教育以外の世界とも繋がる全員の原則】



「命令、報告、通達の伝達は、指揮の系統においてこれを行うものとす。」 P226

「師団長は速やかに決戦方面を決定し、その企図を所要の舞台に明示せざるべからず。」 P234

『統帥綱領入門』



JALを再建した稲盛氏

「必ず再建できるんだという希望を、トップや幹部だけでなく、派遣社員の方々に至るまで抱いて、皆でベクトルを合わせて一生懸命に努力したこと。」

『到知』2021年4月号 P36

■石岡学級での授業「スイッチョ」

ついで、全員起立させて、練習させた。「自分でできるようになったらすわりなさい」と言ってである。立たせて、練習させるのは、一人残らず授業せざるをえなくするためである。一見、座ったままさせるのと同じように見えながら、子供の態度はすぐちがってくるものである。

『向山全集36』P53

■生徒指導「ひとりぼっちの子の調査」

全校一斉に1週間かけて「ひとりぼっちの子の調査」をする。20分休み誰と遊んでいたか聞くわけである。こうすると一人で遊んでいた子が浮かび上がってくる。もちろん、事情のある子もいる。体調が悪かった子、仕事をしている子……。しかし、一週間調査して、そのほとんどが一人ぼっちであるということは、普通ありえない。

『向山全集28』P85

■不登校の子供

このクラスから1名がこぼれ落ちても、このクラスは存在できないのです。あれこれ個性も性格も違う子がいて、全員で構成された生活をしているからこそ、それぞれの子供は、多くのことを学ぶのです。『教師修業十年』P44



授業の原則10カ条 「第五条 所・時・物の原則」



子供を活動させるためには、場所と時間と物を与えよ。 P32

【具体例】 ①資料を見る時間&考える時間 ②机の配置 ③集会・新聞の準備 ④理科 ⑤図工

- ①「教師が模造紙に描いた資料を持ち出して「さあ、このグラフから何が言えますか」子供たちに問う場面である。」 P32
- ②「子供たちに作業させるのであれば、作業をする場を作らなければならない。机の配置がいつも同じなどというのではだめなのである。」 P33
- ③「子供たちに「集会」を準備させようとする。あるいは「新聞」を作らせようとする。このような時も「相談する時間」「作業する時間」「必道具」などを、しっかり確保してやるべきである。」 P33
- ④「理科の教育では「もの」がなければならない。」 P34
- ⑤「図工の時間にも、各種の道具、ガラクタなども用意したい。」 P34

【向山先生の教育観】 指導の放棄である

「そんなことをしないで、「自分たちで工夫してやりなさい」というのは指導の放棄である」 P33

【ポイント】

■（机の配置の基本パターン）授業する時の基本パターンを、6種は使いこなし、10種ぐらいは準備しておくようにしたい。 P33 ■相談の方法・内容にどこまで立ち入るかは、学年によってちがうだろう。しかし、「場所と時間と物」を確保するという事は、教師が当然やっておくべき原則なのである。 P34

【教育以外の世界とも繋がる所・時・物の原則】



「エネルギーは私たちに「自由時間」を与えてくれるのです。そしてこの「自由時間」をもっとも有効に利用したのが女性です。昔と比べて断然増えた「自由時間」のおかげで、女性はテレビを見る時間や新聞を読む時間といった知識を得る機会が増えました。その結果、女性の脳細胞は飛躍的に活性化され、意識や地位の向上をもたらしました。」 『成長するものだけが生き残る』 P78



「グーグルのほとんどのプロジェクトはチームで行われる。チームにはコミュニケーションが必要だ。コミュニケーションを良くする最適な方法は、じかに話せる距離にメンバーを置くことである。実際グーグルの社員は「大部屋」で働く。だから相談したいときにはすぐに声をかけられるし、電話待ちやメールの遅れはない。知的な同僚の隣にいることは、信じられないほど効果的な就業トレーニングになる。」 『グーグルの10の黄金律』

■理科 物に長い時間ふれさせる

「とりあえず「物」があれば、理科の授業になる。その次に「物」に、長い時間ふれさせるということがポイントとなる。「長い時間ふれさせる」と言っても、すぐにあきってしまう子もいる。だから、本当は、ここの部分こそ「教育技術」としては大切なのだが、それでもあえて強調すれば「長い時間ふれさせる」べきであると思う。 『向山全集8』 P12

■教室に畳一枚をぶちこむ

「たとえば後ろのコーナーに広いところをとりまして、畳1枚ぶちこむとします。教室の中にいらなくなった畳1枚をぶちこめば、そこは子供たちにとってたいへん自由な空間となるわけですね。」 『向山全集2』 P69

■仲間のすばらしさ

「先生に、友達の良いところを教えてください」と言って、細長いカードを配った。さしあたり一人あて5枚のカードである。(略) 一人で20枚ものカードを書く人がいる。 『アチャラ』 4号

■理科 磁石

「教室に帰ってから「色画用紙」に、「発見したこと」を書く。(略) なぜ、色画用紙にしたかということ、色画用紙に書いた自分のカードが次々にたまって行って「きれいだな」「もっとやってみようかな」と子供が考えることを期待したのである。 『向山全集8』 P58

授業の原則10カ条 「第六条 細分化の原則」

指導内容を 細分化せよ

P35



【具体例】 跳び箱指導

- ①「プロ教師なら四年生に対して、四段程度（せいぜい五段ぐらいを使って）どの子供も十分に満足する指導をすることができる。そのためには、「開脚跳びをする」という運動を、いくつにも細分化して見ることができなければならない。 P36
- ②さらに、「助走する」にしても、「助走を始める前」「助走を始める瞬間」「助走を始めた直後」・・・というように細分化できる。さらにその時の「目線」「走り方」などと、分解することができる。 P36

【向山先生の教育観】 プロの腕

「およそいかなる職業でも同じだが、プロはアマチュアの見えないことを見ることができる」「素人から見たら、同じように見えることに対して、くわしく細かく分析を加えることができる。これがプロの腕である。」 P35

【ポイント】 細分化して、解釈をし、イメージ化せよ

■分解したそれぞれの「コマ」に対して「どうすればいいのか」という解釈を与えることが必要になる。 P36 ■「これをイメージ化して子供に伝えなければならない」 P36 ■つまり、「細分化して、解釈をし、イメージ化せよ」ということである」 P37 ■「細分化して、解釈をして、発問を考えよ」 P37

【教育以外の世界とも繋がる 細分化の原則】



「上級者は鑑賞のツボを外さない。鑑賞していて、隠れた急所などを正確に見抜くことができるのである。」
『上達の法則』 P109



「その道の専門家になると、赤外線レンズのような目を最終的に身につける。」
『脳が認める勉強法』 P267



「決定的瞬間をいちやくとらえ、その重要性を正確に評価できるかどうか、そこに勝負を見る核心があり、ひいては記述の急所がある。」
『私の文章修業』 P80



「成長の原理
第五の原理 分離・再結合の原理」
『私の文章修業』 P21

■阿波踊り指導 一年ぶりの阿波踊りで踊ろうとしない子供たちへの指導
ところが、阿波踊りの音楽を流しても、だれひとり踊らない（どうしたのだろう）。
忘れたのか？いやなのか？ざわざわしているだけで、全く踊ろうという気持ちさえみえない。私は、音楽さえ流れれば、当然、子供たちは勝手に踊り出すと思っていた。しかし、子供たちが踊らないおかげで、また、向山先生の見事としか形容の仕様がないう指導を見ることができた。音楽を流したまま、①「足だけ動かさない。」これだけでの短い言葉を音楽のじゃまにならないようにはっきり、リズムカルに3回言った。その言葉で子供たちは魔法がかかったかのように動き始めたのだ。
『この目で見た向山実践のウラ技』 P68



授業の原則10ヵ条 「第七条 空白禁止の原則」



たとえ一人の子供でも
空白の時間を作るな。

P38

【具体例】 ①個別指導 ②集会委員への指導

- ①「子供一人一人教卓に呼んで指導する時がある。指導されるとよく分かり、すぐに課題を終えてしまうことがある。終わったから、何をしようかと思うと、何もすることがない。(略) その子供たちは、初めはチョコチョコといたずらを始める。やがて大胆になり、そのうち教室は騒然となる。P38
- ②「集会でうるさくなるのは、集会係がわるいからである。そのためには三秒以上の空白を作らない。」P41

【向山先生の教育観】 教師なら当然のたしなみ

「挑戦しがいのある問題を準備しておくのは、教師なら当然のたしなみであらう」P40

【ポイント】

- 「まず全体に、大きな課題を与えよ。然る後に個別に指導せよ。」P39
- 「授業中の個別指導は「完全にさせる」ではなく、「短く何回もさせる」ということを原則にせよ。」P39
- ただし、極めて大切なポイントとして、他の子供たちにも波及効果があるときは、この限りではない。」P40
- 「終わったあとの発展課題は必ず用意しておく。」P40

【教育以外の世界とも繋がる 空白禁止の原則】



「テレビでは四秒しゃべらないでいると間が抜けて見えるのです。」
『授業の腕をあげる法則』P41

■筆算指導

「1, 2, 3, 4, 5の5枚のカードを使ってできる一番多き数を言ってみましょう。」
「じゃあ、2番目に大きい数、3番目に大きい数をノートに書きなさい。」
『月刊誌 向山型算数』「向山洋一の介入模擬授業を受けて」上木信弘氏P77

■ノートの丸付け

「授業中のノートの丸付けは、「列をつくらない」ことが原則となる。それまで、長々と説明している教師をよく見かけた。長い説明が教室に騒乱をもたらすのである。短くするためには、「1問だけ」評定すればいい。バツか丸かが分かりやすい。説明はいらない。」
『向山全集78』P153

■計算スキル この場合、うしろの⑩から答えをいう。⑩から⑥まで、速いスピードで○をつけさせる。⑤問目に入るとき、「お待たせしました。5問コースの人も○をつけてください」とうながす。教師は熱気をおびる。そして、2問コースの子が待つ「②」の答えをゆっくり言う。最後に①をゆっくり言う。『向山全集24』P108

■赤えんぴつ指導

勉強できない子に、赤鉛筆で援助することがある。できない問題の答を、ノートにうすく書いてあげるのだ。子供は、それをなぞってくる。小学生なら、ほぼ全員が、こうした教師の援助を喜んで受け入れる。(略) 教師が使うのは、赤鉛筆であって、赤ペンではない。プロの教師なら必ず赤鉛筆を使う。赤鉛筆だからこそ、薄く書いてあげて、なぞらせることができるのだ。赤ペンで書いてやると、子どもは「ブイッ」と怒って、そっぽを向く。ノートを汚されたと思うのだ。「なぞってごらん」ということも、小さく、ささやくように言う。これを、大きな声で言う無神経な教師がいてあされる。仏をつくって魂入れずだ。本当は、赤鉛筆で全部を書くのではなく、最初の所ぐらい自分でやらせるのがいい。そんなときは、「ここは自分でやるんだぞ」と大きな声で言ってやる。みんなに聞かせるためだ。「できました」と持ってきたら、「よくやった」、「ここは自分でやったんだよな」と、更に大きな声で言ってほめるのである。赤鉛筆を使いこなすのだから、ことほどさように、いろいろな場面があるのだ。『向山全集78』P226

授業の原則10カ条 「第八条 確認の原則」

指導の途中で何度か
達成率を確認せよ。

P42



【具体例】①地図帳②新出漢字③ハーモニカ④音読⑤机間指導

- ①地図帳を開き、大阪市をさがさせるとする。全員がさがせたかどうかを確認しなくてはならない。(略)「大阪市に人さし指を当てなさい」というのも一つの方法である。P45
- ②新出漢字を教える。(略)書き順を「一、二、三、四」と言わせながら空書きさせるのがいい。
- ③ハーモニカが吹けているかどうかは、教師から分かるように「ド」の所に赤い印をつけておけばいい。P45
- ④全員に音読をさせる時には「全員起立。読み終えた人から腰掛けなさい」P45
- ⑤机間指導も確認のための有力な方法である。P46

【向山先生の教育観】評価は主として教師のためにある

「評価は誰のためにあるのかというと、主として教師のためにある。自分の指導のまずいところを自分で診断するわけである。」P42

【ポイント】

- 「分かりましたね」という言葉を教師は発してはならないのである。P43
- 達成率を確認する方法は、いくつものささいな技術である。P44

【教育以外の世界とも繋がる確認の原則】



PDCAサイクルは、Plan (計画)、Do (実行)、Check (評価)、Action (改善)の頭文字を取ったもので、1950年代、品質管理の父といわれるW・エドワーズ・デミングが提唱したフレームワークです。



落語家 立川談志

「現実が事実だ。
そして現状を理解、分析してみる。」
『赤めだか』



小惑星探査機はやぶさ

「自分の目で見ろ！」

リーダー川口氏
下関市教育祭 講演会より

■ノートの丸付け

私は32年間の間、算数の授業をやって、1時間の中で1回だけはどの子にも丸をつけてる。1カ所だけ。1年間習っても、先生に1回もノートを見せに行っていないという子もいるんですよ。親として見たら、毎時間に1回は家の子のノートを先生が目を通してあげている、できるにしてもできないにしても。そちらの方が、とても安心感がありますね。ですから、先生が1回は丸をつけてやるってことはとっても大事なことです。

『向山型教え方教室』PHP

■教育実習生に対して

「練習問題をさせているときに、あなたは机間巡視をしましたね。あの時何を見ていたのですか」とたずねた。「できない子がいるかどうか見ていたのです」と答えた。「それで何人いたのですか」と聞くと、「三、四人ぐらいです」と、返事が返ってきた。「三、四人ぐらいとは何事ですか。子供たちを十把ひとからげに見ているわけじゃないのですか。」 『教師修業十年』P99

授業の原則10ヵ条 「第九条 個別評定の原則」



誰がよくて
誰がわるいのかを
評定せよ。 P48

【具体例】 ①跳び箱指導 ②卒業式呼びかけ指導

- ①跳び箱指導「私の場合は、二台同時に使い、次々に跳ばせる。そして、十点満点などで、次々に評定するのである。」P50
- ②卒業式呼びかけ指導「これから番号を言います。自分のセリフの番号を言われた人は起立しなさい。一番、三番、(略)あなた方の声は聞き取れません。もつと大きな声で言いなさい。分かったら座りなさい。」P54

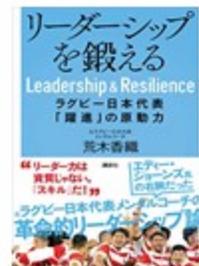
【向山先生の教育観】 プロの力 残念ながらすぐに身につけない

「分析し批評するとは、どこがなぜいいのかを語る方法なのである。しかし、こうした力は残念ながらすぐに身につかない。見る目がある人に教わり、すぐれた指導をいつぱい見てきて、自分の目を養っていく他ない。P49

【ポイント】

■なぜ一点なのか？それを教師は説明し、納得させなくてはならない。「〇〇くんは、力が入りすぎていたでしょう。もっと力を抜いて跳んだほうがきれいに跳べるのです」というようなことを話し、どれがきれいなのか、他の子に跳ばせてみせるのである。だから、誰がきれいであったのかを判定し、覚えていなくてはならない。P55

【教育以外の世界とも繋がる 個別評定の原則】



「リーダーは、年代、性別、趣味、仕事への価値観などがすべて違う、多様なフォロワーと接することになります。それぞれのフォロワーに対する理解がなくては、そもそも組織として成立しません。『リーダーシップを鍛える』P102

■授業中の丸付け

「授業中のノートの丸付けは、「列をつくらない」ことが原則となる。それまで、長々と説明している教師をよく見かけた。長い説明が教室に騒乱をもたらすのである。短くするためには、「1問だけ」評定すればいい。バツか丸かが分かりやすい。説明はいらぬ。最後まで残った何人かは、呼んで「うすく書いてやる」方法や、「数字に丸をつける」方法などをすればいい。これが、向山型の丸付けであり、最初から私が主張してきたことだ。もちろん、1000万、2000万人もの子どもがいれば、いろんな子が出てくる。そうした子には、原則を踏まえて担任が工夫していくのである。これが、フィードバックだ。

■六年生 お別れ会の劇 同学年を組んだ師尾先生の文章

一回通り、流してみた。きのうと同じく、面白くない。面白くはないが悪くはない。何度も工夫し、もう少し面白くするには指導してきた。もう明日にひかえてのことなので、(ちょっとインパクトはないが、十分である)と思っていた。

ところが、向山先生が例によって「じゃ、今度は点数をつけます。」と言ったとたん、子供の動きが変わった。相談の時間を十分とってあげてもろくに相談しなかった子供たちが、「先生、少し時間をください」なんて言うてくる。(略)向山先生に「あきれほど、変化しました。なぜでしょう」とお聞きすると、「阿波踊りと同じ、引き出す指導ですよ」と言われた。『この目で見た向山実践のウラ技』P108

■スイッチョ 石岡学級飛び込み授業

お母さんの言った言葉を読ませた。はじめの子は大きな声で読んだ。これは大きな声で表現すべきではない。「零点」私ははっきりと評定した。勉強ができそうな、かしこそうな子を次々とあてた。授業中うるさかった子にもあてた。次々にあてていったのである。全員零点である。教室は「シーン」となっていた。

『向山全集36』P52



新版
授業の腕を
上げる法則

向山洋一



**常に
はげまし続けよ**

P58

【具体例】ダメな例：忘れ物一覧表 競争のシール取り

- ①「エサで動き、オドシで動くようなところに、「成長」は（あまり）期待できない。教室に「忘れ物一覧表」などを貼ってあることがある。子供の名前がズラッと並んでいて、×がついているわけである。見せしめのために貼りだしているわけだ。P58
- ②競争でシール取りをさせている教師がいる。中には、10枚たまったら金賞を与えるなどというものもあるらしい。最低の教育である。子供を「もの」でつっているからだ。P59

【向山先生の教育観】教師の原則

「教育とはほど遠い、形式的行為のくり返しが行われるのである。P60
「子供が持っている欠点を克服するよう絶えずはげまし続けること、
「大丈夫だよ、がんばってみよう」「この前よりよくなったよ」と言い続けること、それは教師の原則なのである。P62

【ポイント】細分化して、解釈をし、イメージ化せよ

- 人間が動く方法は、やる気にさせるのが一番いい。それしか、方法がないと言ってもいいくらいである。P60
- 教師は「あなただめです」と言うてはならない。それは教師としての倫理に反する重大な犯罪行為である。P61

【教育以外の世界とも繋がる 激励の原則】



落語家 立川談志

「あのなあ、師匠なんてものは、誉めてやるぐらいしか弟子にしてやれることはないのかもしれない、と思うことがあるんだ」
『赤めだか』P76



野球選手・監督 野村克也

「人は無視・賞賛・非難の段階で試される」
『弱者の兵法』P207



「両親や教師など子供を取り巻く周囲の人間がADHD児に対しておだてまくる漢語が必要なゆえんである。」
『発達障害の子どもたち』P140

■三年生のときにいじめられていたAさん T2をしていた筈田先生の原稿
4月当初。授業の初めに復習として九九を言わせた。6の段、5の段、4の段、2の段など。「上がり九九」だけでなく「下がり九九」もやった。Nさんは九九は言えた。早くは言えないが、みんなについていける。そこで向山先生は暮らす全体を大きくほめた。「すごい。よく言えた。」
「昨日よりも早くなった。天才。」
とにかく大きくほめる。Nさん個人にではないが、Nさんはそれがとてもうれしく、授業中笑顔で喜んだ。
(略)わり算では、Nさんが黒板に出て問題を解いた。
「みんな、見てごらん。Nさんがこんなにしっかりと解いたんだ。Nさん、できるようになったなあ。」
向山先生は、いじめていた、ばかにしていたクラスの前でNさんをほめたのである。
『この目で見た向山洋一 TT授業の衝撃』14